

～BCG ワクチンとコッホ現象について～



① BCG ワクチン

日本は結核の中蔓延国と呼ばれ、結核が殆ど出てない地域もあります。都内でも発症率は少ないですが、一部でコッホ現象や乳児での結核の報告が稀にあります。特別な理由が無ければ、**生後5ヶ月くらいにはBCGをしましょう（結核が流行している地域では、もっと早い接種が奨励されることもあります）。**

② 何処に打つの？

原則として**左腕（伸側の真ん中）**です。日本では細い9本の針を2回押し付ける方法です（管針法）。海外では皮内接種でお尻に接種することもあります。腕だと跡が残るから、他の場所に接種してほしいと言われることがあります。しかし、他のところに管針法で接種するとケロイドができやすくてトラブルになるため、日本では左腕と決められています。

③ 接種した後

接種後14日頃から接種跡がポツポツ赤くなり、接種後5-6週間でピークになることがあります。一連の反応は、免疫が出来たために起こる普通の反応です。逆に言えば、BCG ワクチンを接種してから免疫が成立するまでには時間がかかるのです。

④ コッホ現象について

通常のBCG ワクチンでは接種後、時間が経ってから赤く腫れます。前述の通り、免疫が成立するまでに時間がかかるからです。**しかし、BCG ワクチンを接種する前に既に結核菌に感染した場合は免疫があるので、BCG ワクチン接種後比較的早く接種部位が赤くなる場合があります。これがコッホ現象です。**

つまりコッホ現象が出たお子さんは既に結核菌に感染している可能性があります。接種してから1週間～10日以内（多くの場合は3日以内）に反応が出たら要注意です。

ただ、結核菌に似た菌（非結核性抗酸菌）に感染した場合でもコッホ現象が出ることもあり、必ずしも結核に感染していることを意味するわけではありません。平成17～21年度に厚生労働省にコッホ現象として報告された

814例を検証した結果、コッホ現象に伴う重大な障害は認められなかったと報告されています。



⑤ 偽コッホ現象

今の日本では、多くのコッホ現象は「偽コッホ現象」と言われています。
BCG ワクチン接種時の刺激で、接種部位が一時的に赤くなることがあります。
その場合は、1～5 日くらいで赤みは落ち着きます。



⑥ コッホ現象が出たら？

あまり急ぐ必要はありません。まずは腕の写真を撮ってください。

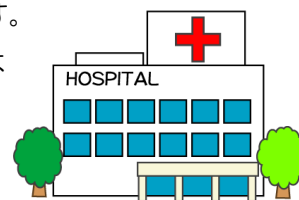
翌日以降も続いているようであれば、接種した施設や保健所・病院に問い合わせしてみましょう。

落ち着くまでは連日写真を撮り続けて（入浴後は体が温まり赤く見えやすいので朝など時間を決めて）診察時に持参しましょう。



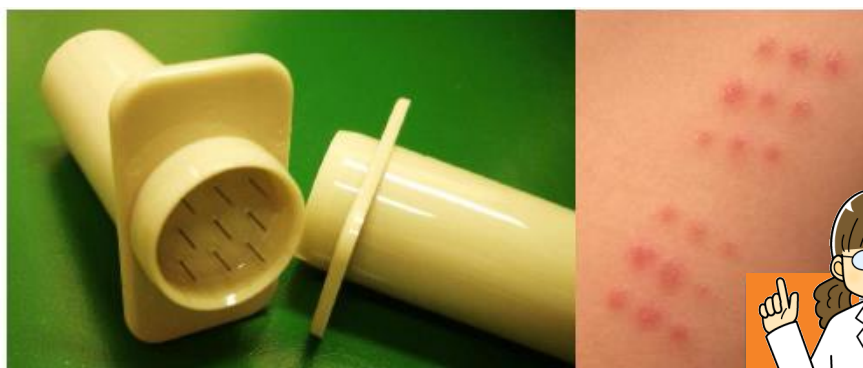
⑦ 本当のコッホ現象だったら？

地域によって対応が異なりますが、結核が疑わしい場合は検査が必要になります。
お正月・夏休み・大型連休前には、特別な理由がない限り BCG ワクチン接種は避けたほうがいいかもしれません。



⑧ 二回接種するの？

昔はツベルクリン反応で反応が弱ければ BCG を再接種していましたが、今では再接種の効果は疑問視されており、BCG ワクチンは一回勝負の接種です。私たち 接種医は力いっぱい接種していますが、BCG ワクチンが一回勝負になってからは更に力いっぱい接種しています。 もし、あまり針痕数がなくても原則として再接種はしていません。再接種する場合は任意接種（自費）になります。



グレイス病院 小児科 松居 彗り子